

世界遺産登録に向けて

鶴子銀山(8) 上杉景勝の佐渡代官河村彦左衛門

文禄4(1595)年、坑道掘りが増加されると、金掘りや鍛冶など様々な職人が集まり、鶴子銀山は大いに賑わいました。このため、翌年9月、上杉景勝の佐渡代官頭である河村彦左衛門(生年不詳、1608)は、河原田の代官黒金安芸守を通じ、小木の代官大井田監物に対し、米723石を鶴子銀山に納めるよう指示しました。

河村は、景勝の重臣直江兼続の家臣団である与板衆の一人で、上杉領の検地などを手掛けた能吏でした。天正17(1589)年の上杉景勝の佐渡平定後、両津湊に居を構えていましたが、鶴子の本口間歩で坑道掘りが始まると、隣接する外山陣屋に移りました。

河村は、すでに景勝の支配下にあった越後村上周辺の鉱山にも明るく、ここで産出された鉛を佐渡へ送らせました。「灰吹法」によって銀を製錬するために必要な鉛の安定供給は、鶴子銀山ばかりではなく、その後の相川金銀山の発展につながったものと考えられます。

また、慶長2(1597)年、人

口が増加する鶴子銀山の食糧を確保するため、河村は「一国御成箇御年貢吟味」を実施し、佐渡の年貢を2割増としました。ところが、『佐渡風土記』によれば、このことが百姓らとの関係を悪化させてしまう原因になりました。

このような中で、慶長3(1598)年正月10日、豊臣秀吉の命により景勝は会津120万石へ移封(領地替え)されます。しかし、河村は引き続き景勝の代官頭として佐渡を治め、後に「慶長検地」といわれる一国検地を実施しました。



河村彦左衛門供養塔 慶長13(1608)年7月、河村が没した直後、相川の大安寺に建立された

◆市役所世界遺産推進課(金井就業改善センター内) ☎63-51336

地域おこし協力隊の活動を紹介します



外海府地区担当 重盛真知子さん

佐渡市民となり、はや2年が経とうとしています。外海府では、閑集落に家を借り、地域の行事や伝統文化を体験するなど、地元の方々と共に、貴重な時間を過ごしています。

活動1年目は、地域で行われるさまざまな行事など、ありとあらゆる場面に参加させてもらい、地域の皆さんに自分の顔を覚えてもらうことに必死になっていました。

経験したことがない農作業では、地域の方が丁寧に教えてくださいました。私に教える手間と時間で、どれだけの農作業がはかどっただろうと思うと、お手伝いに来たことすら申し訳なく感じてしまうこともこれまで多くありました。地域の方々を外から来た私を受け入れようと、真剣に向き合ってくれたことが、本当に嬉しかったです。

2年目となると、もう慣れたかと思えることがよくありますが、佐渡の暮らしでは、まだまだ慣れない

ことがたくさんあります。地域おこし協力隊の任期はとも短いです。その中で、生活に慣れ、地域の事を知り、人々の顔や名前を覚え、課題やニーズを見つけるといふ作業を行わなければなりません。協力隊として期待される部分もありますが、自分のペースで、今住んでいる場所を見つめていきたいと、改めて感じています。



外海府の冬は、厳しくも美しいです

◆市役所地域振興課 地域振興係 ☎63-4152